

# 障害による働きづらさって何だろう



話し手 ・ 沖山 稚子 さん  
(障害者雇用研究員)

4月2日(金)18:30~21:00

このべんきょう会は、障害者が地域で働くというテーマをきっかけにしながら、障害のない人の働き方や暮らし方を含めて、フリーに語り合おうという会です。1回、1回、話し手をお願いし、そのお話を口火にしておしゃべりしますので、初めての方でもどうぞおいで下さい。

今回は、障害者職業カウンセラーの草分けである沖山さんをお迎えして、障害者雇用の変化と今後の課題について、お話しいただきます。

終了後お時間のある方は、近くのファミレスで、おしゃべりの続きを楽しみましょう。



越谷市中央市民会館

5階第7会議室

会費:200円(資料代)

手話通訳あり

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会  
048-964-1819 (職場参加ビューロー世一緒)

第41回 共に働くまちを拓くべんきょう会

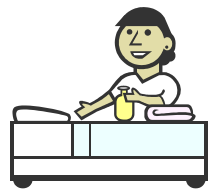
# 障害による働きづらさについて何だろう

## 共に働く関係を進めるために

話し手

沖山 稚子 さん

(障害者雇用研究員)



「いまは制度が整う一方で専門分化して専門家がが増えていますが、職業カウンセラーの仕事は「単に人が就職するのを手伝う仕事」だと言っています。何時間仕事ができるか、どこまでできるか、そんなことばかりが計られています。仕事が続く人はそんなことができなくても続きます。特に日本という国では人と人との和が保てる人が伸びていきます。何ができる、どれだけできるから評価されるという欧米のやり方では勤まらないです。それでは人が見えなくなってしまう。」

「私の仕事はその人の人生観が出ます。自分が働くのがいやで、辞めたいと思っていながら皆さんの前でお話できません。皆さんもチャレンジしてほしいと思います。だから、それは辞めることも「あり」だということでもあるのです。きつくなったら撤退することです。」(2004年 新宿家族会勉強会での講演から)

沖山さんは、日本で障害者の就労支援が始まったころから、仕事として関わってこられました。当会の前身である障害者の職場参加を考える会当時にも、アドバイザーをいただいた経過があります。いまは、長年、障害者職業センターの現場や職業リハセンターで働いて来られた経験を踏まえて、研究員としてお仕事をされています。

沖山さんの最近の研究テーマは、「職業的困難度」、ひらたく言えば「障害による働きづらさって何だろう」ということです。雇用促進法では障害者手帳の重度・軽度等が基本になっています。しかし、働くということとは本人と事業主の相互行為です。「働きづらさ」とは、それぞれの状況や互いの関係によって変わってくるものだと、沖山さんは言います。事業所への調査では、雇用が難しいと思われる障害の筆頭は、視覚と精神でした。また、45歳以上の障害者の雇用も独自の難しさがうかがわれました。

いま、国レベルで、障害者雇用の見直しが議論されています。沖山さんは、これまでのありかたが、「障害」偏重で障害部分に焦点をあてすぎている点と併せて、欧米流のやりかたに追随してきた点にも問題があると述べます。「事業主が身寄りのない障害者従業員之死水をとった」という例にあるような日本社会の人間関係を踏まえ、働きづらさや支援のありかたを考えてゆこうとされています。

働いていない人も含めた当会の活動にはたいへん関心を寄せて下さってもいます。たくさんのお話を聞きましょう。

4月2日(金) 18:30 ~

越谷市中央市民会館  
5階第7会議室

会費:200円(資料代)

手話通訳あり

(終了後、時間のある方は  
ファミレスでおしゃべりしましょ)

NPO法人障害者の職場  
参加をすすめる会

048-964-1819

職場参加ビューロー世一緒